

みみタロウ

にほんごばん ☆ 128号 2018年7月

しがけんこくさいきょうかいぼらんていあぐるーぷ「みみタロウ」
おおつし はま びあざおうみ
大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海 2F
Tel/Fax : 077-523-5646
E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp
URL : http://www.s-i-a.or.jp
f : https://www.facebook.com/siabiwako

かいご いのち あず しごと 介護は命を預かる仕事です！

みみタロウは、「第14回外国人による日本語スピーチ大会」で滋賀県国際協会会長賞を受賞されたサンチアゴ ロベルト アルバさん(彦根市)にお話を伺いました。



わたしは2010年、フィリピンと日本間の経済連携協定(EPA)を通して来日し、彦根市にある特別養護老人ホームに勤めています。この制度は、日本で人材が不足している介護の分野にフィリピン人の介護福祉士候補者を受け入れると

いうもので、候補者は受け入れ施設で働きながら勉強し、介護福祉士の国家試験に合格すると、そのまま日本に滞在できます。候補者は介護も日本語もほとんどわからない状態で来日するので、試験に向けて猛勉強しなければなりません。私は、仕事の傍ら、地域の日本語教室や施設の方々から日本語や介護の専門知識を教えていただいて国家試験に合格し、介護福祉士になって4年目になります。

介護の勉強は、日本特有の文化や専門知識など知らないことばかりでとても興味深いものでした。しかし言葉の習得は大変で、特に介護の微妙な表現は動作を見なければ分からないものもありました。また実際の現場では、教科書通りの言葉や丁寧な言葉が利用者さんに通じなかったり、言葉を真似る相手を間違えたとおかしなことになったりなどいろいろありますが、いつも優しい気持ちが利用者さんに伝わってほしいと思いつつながら話しかけています。

「お年寄りが好きで介護をしているのですか」とよく聞かれるのですが、特にそういう訳ではなく、日本に住むためにこの仕事に就きました。フィリピンでは、国内に充分仕事がないため、国を挙げて海外労働を奨励しています。私の父も海外で働いていたので、父の声はカセットテープで聞いて育ちました。でも、そのおかげで私は大学を卒業でき、化学関連の会社で働いた後、カタールでエンジニアの仕事をしていました。日本に来ることを考えたのは、結婚したからです。子どもも生まれ、将来家族が住む国はと考えた時、祖国からも近く平和な日本に来ようと思いたち、EPAに応募したのです。日本人には理解しにくいかもしれませんが、多くのフィリピン人が、良い環境で暮らすためには職種は二の次で、なんでもやろうという気持ちを持っています。私は、日本なら子ども達も安心して育つだろうし、大きくなっても出稼ぎに行かずに家族と一緒に暮らしていけると思いました。まだ家族はフィリピンにいますが、一緒に住める日を楽しみにしています。

私の勤める特別養護老人ホームには、寝たきりなど介護度の重い方が入所しており、ここで最期の時まで過ごされます。私はそこで唯一の外国人スタッフとして、50人の利用者さんが幸せな日々を過ごされるようお世話をしています。介護は人間相手なので、24時間、休日も関係なく、チームで行います。このため私が外国人という事で、周りのスタッフに気を遣わせたり負担にならないよう心がけています。「ご家族に会いたいでしょ」と言葉をかけてもらったりもしますが、帰国の休暇も年に一度、他の職員と同程度の範囲に止めています。心身共にきつく忙しい職場なので、どの人も休みたいの是一緒です。自分だけ外国人なのでと甘える訳にはいきません。それに何よりこの職場で長く働きたいので、周りの人との関係を大切にするのは、結局私自身のためでもあると思うのです。もう一つ、外国人であることで気にかけているのが、たまに来られるご家族の方との面会です。日々接してる利用者さんやそのご家族は私のことをわかってくださっていますが、めったにお会いしない方に日本語が不十分な外国人がいきなり応対すると不安になるのではないかとと思うので、そのような時には他の職員に代わってもらうなどしています。

介護の仕事は認知症や寝たきりの方のお世話など専門知識がなければ難しい部分も多い仕事ですが、人相手だからこそ楽しいコミュニケーションがあり、介護者自身のあり方にも深く関わる仕事です。このため私は多少疲れていても、いつも職場に楽しい気分で行くようにして、すると日常の些細なことにも沢山の喜びが見つかります。利用者さんに外国の話を楽しんでもらったり、私の名前を覚えてもらって呼んでもらえるだけでも嬉しくなったりするんです。それが、仕事を頑張れる原動力なのかもしれませんね。

今年度からいよいよ介護分野の技能実習制度も動き始めましたが、私の施設でもこの制度を利用して外国人介護士の受け入れ準備を進めています。私は8年間介護の仕事に携わり、その技術だけでなく、日本の文化や考え方など多くのことを学び、それは私の財産になりました。今後は、この体験を新たに来る外国人介護士に伝えていくことが、私の使命だと思っています。日本人の職員には外国人スタッフに負担にならないように支え、外国人スタッフには介護という仕事は命を預かる大切な仕事だということをしっかり伝えて、職場のチームで大切な命を守っていきたいと思います。